

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容 【 B 】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
	キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	<p>スポーツ・健康科学部では、全学共通科目、基礎教育科目、専門教育科目の中に必修科目や選択科目を配置するとともに、カリキュラム・ポリシーに基づき、授業科目を適切に開設している。</p> <p>スポーツ科学科は、教育課程の編成・実施方針に基づき、必要な授業科目の編成に努めている。教育課程を体系的に編成することを意図して「学科の学びの Route」を作成し、1 年次は「フレッシュマンルート」と称し、大学生としての基本的態度と基礎教養・技能の習得を、2 年次は「スポーツキャリアルート」と称し、スポーツ科学科生としての専門知識・技能の習得と将来観の確立を、3-4 年次は「ルート フォー フューチャー」と称し、スポーツ科学人としての将来観に基づく自己実現の達成をそれぞれの教育目標として掲げている。授業科目数は、基礎科目 18、専門科目 130、全学共通科目 222、言語科目 12 である。</p> <p>健康科学科は、教育課程の編成・実施方針に基づき、各学年に順次性のある授業科目（全学共通科目、基礎教育科目、専門教育科目、資格教育科目）を体系的に配置している。また授業科目が最適相当となっているか（卒前教育に求められる内容と時間数、設置学年、科目数等の適否）について、学科の自己点検作業部会で検証している。必要な授業科目の編成に努めている。授業科目数は、基礎科目 10、専門科目 58、全学共通科目 2、自由科目（専門＋全学）54 と、臨床検査技師に関する科目 32、食品衛生管理者・食品衛生監視員に関する科目 7、第二種作業環境測定士に関する科目 5 である。</p>
4-2-2	<p>学部として、教育内容の適切性については学科教務委員会等において継続的に検証を実施し、カリキュラム編成に反映させて学士課程教育に相応しい教育内容を提供するよう努めている。</p> <p>スポーツ科学科については、初年次教育としては、1年次に開講される「フレッシュマンセミナー」において、大学で専門的内容を学ぶための基礎学力の確認と努力の方向性を確認し、日常生活上のマナーやソーシャル&コミュニケーションスキルの要点について学ぶとともに、大学への帰属意識の向上も意図している。またキャリア教育としては、2年次に開講される「スポーツキャリアセミナー」において、卒業後の自分の進路について考える機会を提供し、そこに到達するためには何をしなければならぬのか、などについて考え、実際に取り組むことを意図している。</p> <p>健康科学科については、初年次教育として、入学直後に「フレッシュマンセミナー」を開催し、日常生活上のマナーやコミュニケーションスキルの要点について学ばせる機会を作り、進路選択について考えさせている。また「健康科学基礎演習」を開講し、健康科学科における主体的および自主的な学びを実践するための基礎的能力（スキル）の向上をはかっている。さらに、キャリア形成支援・就職支援ガイダンスを適宜開催している。健康科学科で学習する各科目の概要と取得できる国家資格（臨床検査技師、食品衛生監視員、作業環境測定士Ⅱ種）の概要および国家試験についてもガイダンスし、将来観をもたせる工夫をしている。</p>
4-2-3	<p>スポーツ科学科としての学生の国際交流については、2012 年度、2013 年度の交換留学は派遣・受け入れ共に実績はないが、奨学金留学生については 2013 年度、米国へ 1 名の実績がある。</p> <p>健康科学科としての学生の国際交流については、2012 年度、2013 年度の交換留学は派遣・受け入れ共に実績はないが、協定予定校との話し合いは継続していて、実施について模索中である。</p>
4-2-4	両学科教務委員会で定期的にカリキュラムを検証し、必要に応じて学科協議会、学部教授会にて審議する。

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-3	学部主体で上海体育学院（中国）、ノヴァ大学 CIOS（オランダ）ノーザン・マリアナズ・カレッジ（米国）と学術交流協定を結んでいる
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	スポーツ科学科の特色を踏まえ、学生が主体的に学ぶことができ、自ら到達度を計測できるようなシステムを構築することが求められる。
4-2-2	学部として、全学共通科目において開設されているキャリア教育関連科目との有機的な連携を図る必要がある。
4-2-3	学部として、学生の国際交流（交換留学、海外研修等）に関する実績は少なく、さらに推進していく必要がある。
4-2-4	学部として、教育課程の適切性を検証するプロセスについて再検討する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大学学則、大学案内（CROSSING）、スポーツ・健康科学部履修の手引き「羅針盤」2013年、大学HP 学部教授会議事録

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-2 カリキュラムの見直し、初年次教育、キャリア教育の強化を行う。	→				
	4-2-1 学生の主体的な学びを支援するため の仕組みを整備する。	→				
	4-2-3 学部または学科主体の国際交流を活 性化させる。	→				
14年度 目標	4-2-2 カリキュラムの見直し、初年次 教育、キャリア教育の強化に関する 検討を始める。	→	A			
	4-2-1 学生の主体的な学びを支援す るための仕組みの整備を始める。	→	A			
	4-2-3 国際交流締結校を増やしてい く。	→	A			